

## 資料

# 平成30年度性器クラミジア感染症及び淋菌感染症の抗原検査結果概要

中山志幸・カール由起・重村洋明・江藤良樹・濱崎光宏・世良暢之

平成30年度に当所に検査依頼された性器クラミジア感染症及び淋菌感染症に係る抗原検査の検体数は、性器クラミジア抗原検査 1,022 件（男性 663 件、女性 359 件）及び淋菌抗原検査 1,022 件（男性 662 件、女性 360 件）であった。そのうち、性器クラミジア抗原陽性検体は 55 件（男性 23 件、女性 32 件）で、陽性率は 5.4% であった。一方、淋菌抗原陽性検体は 5 件（男性 2 件、女性 3 件）で、陽性率は 0.5% であった。

[キーワード：性器クラミジア感染症、淋菌感染症、抗原検査]

## 1 はじめに

性器クラミジア感染症及び淋菌感染症は、性感染症の中でも患者数が多い疾患である。国が実施する感染症発生動向調査によると、平成 30 年は性器クラミジア感染症 25,467 件、淋菌感染症 8,125 件が報告されており、いずれの感染症も平成14年をピークに減少し、平成21年以降はほぼ横ばいとなっている<sup>1)</sup>。患者数が多い原因のひとつとして無症候性の感染者の存在が指摘されており、本人が感染していることに気づかないまま性交渉を行い相手に感染させ、新たな感染者も感染に気がつかずに、さらに感染を拡大させるという“無症候性感染の連鎖”によって、若者の間で感染が拡大することが懸念されている<sup>2,3)</sup>。

福岡県では性感染症予防対策の一環として、平成 16 年 3 月から性器クラミジア感染症について抗体検査を開始した。平成 25 年 4 月からは、尿を検体とする抗原検査に変更し、性器クラミジア感染症に加えて、淋菌感染症についても実施している。本稿では、平成 30 年度に実施した検査の概要について報告する。

## 2 方法

### 2・1 検体

検査には、平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月に県内 9 保健福祉（環境）事務所で採取した検査希望者の初尿 2 mLを用いた（性器クラミジア検査 1,022 件；男性 663 件、女性 359 件、淋菌検査 1,022 件；男性 662 件、女性 360 件）。

### 2・2 検査項目

初尿中の性器クラミジア抗原及び淋菌抗原について検査を実施した。

### 2・3 試薬及び機器

性器クラミジア抗原検査及び淋菌抗原検査には、アプティマ Combo2 クラミジア/ゴノレア（ホロジックジャパン株式会社）及び Ps-1000 分離機/As-1000 増幅検出機（富士レビオ株式会社）を用いた。

### 2・4 検査方法

RNA 抽出液 100  $\mu$ L に検体 400  $\mu$ L を加え、緩やかに攪拌した。Ps-1000 分離機を使用し、ターゲットキャプチャー法により性器クラミジア及び淋菌の RNA を精製した。精製した RNA について As-1000 増幅検出機を使用し、Transcription mediated amplification (TMA) 法による RNA 増幅後、発光特性の異なるプローブを用いたハイブリダイゼーションにより性器クラミジア及び淋菌の抗原を検出した。

## 3 結果

本事業における性器クラミジア検査件数及び淋菌検査件数を図 1、図 2 に示す。平成 26 年から平成 29 年の検査件数は 850 件前後と横ばいであったが、平成 30 年は性器クラミジア検査及び淋菌検査とも 1,022 件と約 1.2 倍に増加した。平成 30 年度の性器クラミジア抗原検査及び淋菌抗原検査結果を表 1 に示した。搬入検体数は 20 歳代が 372 件（男性 206 件、女性 166 件）と最も多く、次いで 30 歳代が 323 件（男性 199 件、女性 124 件）であった。性器クラミジア抗原陽性は 55 件（男性 23 件、女性 32 件）、淋菌抗原陽性は 5 件（男性 2 件、女性 3 件）であった。性器クラミジア抗原陽性率は、男性 3.5%、女性 8.9 %であり、女性の方が男性より有意に高かった ( $p<0.05$ , chi-square test)。

文献

- 厚生労働省：感染症発生動向調査 性感染症報告数  
(<http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html>).
- 余田 敬子ら：口咽科 2011；24：2；171-177
- 性感染症 診断・治療ガイドライン2016（改訂版），日本性感染症学会誌：Vol.27,No.1 Supplement

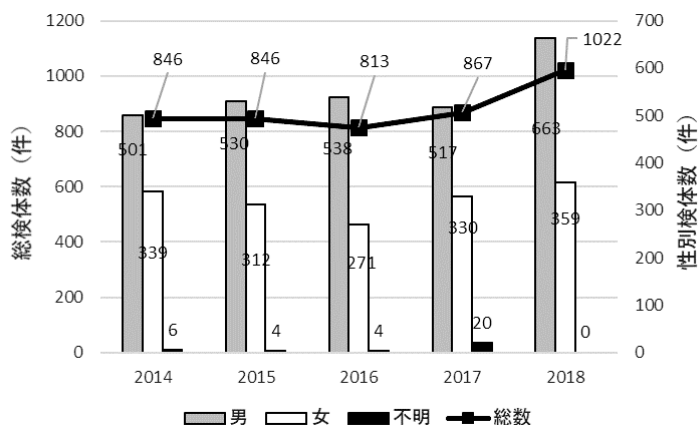


図1 性別性器クラミジア検査数

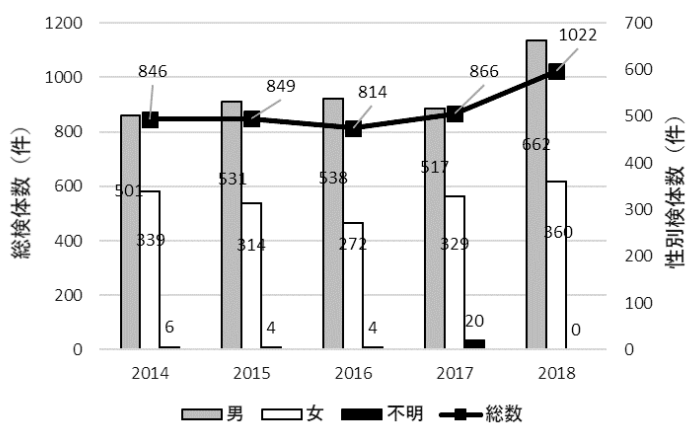


図2 性別淋菌検査数

表1 年齢区分別検体搬入数及び抗原陽性数（陽性率）

性別	年齢区分	クラミジア		淋菌	
		検体数	陽性数(陽性率)	検体数	陽性数(陽性率)
男性	～19歳	16	2 (12.5%)	16	1 (6.3%)
	20～29歳	206	12 (5.8%)	206	1 (0.5%)
	30～39歳	199	7 (3.5%)	199	0 (0.0%)
	40～49歳	109	0 (0.0%)	109	0 (0.0%)
	50～59歳	56	0 (0.0%)	56	0 (0.0%)
	60歳～	77	2 (2.6%)	76	0 (0.0%)
	小計	663	23 (3.5%)	662	2 (0.3%)
女性	～19歳	12	3 (25.0%)	12	0 (0.0%)
	20～29歳	166	20 (12.0%)	166	3 (1.8%)
	30～39歳	124	6 (4.8%)	125	0 (0.0%)
	40～49歳	36	2 (5.6%)	36	0 (0.0%)
	50～59歳	12	1 (8.3%)	12	0 (0.0%)
	60歳～	8	0 (0.0%)	8	0 (0.0%)
	不明	1	0 (-)	1	0 (0.0%)
	小計	359	32 (8.9%)	360	3 (0.8%)
計	1022	55 (5.4%)	1022	5 (0.5%)	